

流域治水プロジェクトの取組事例集 (引地川水系)

(引地川流域総合治水対策協議会)

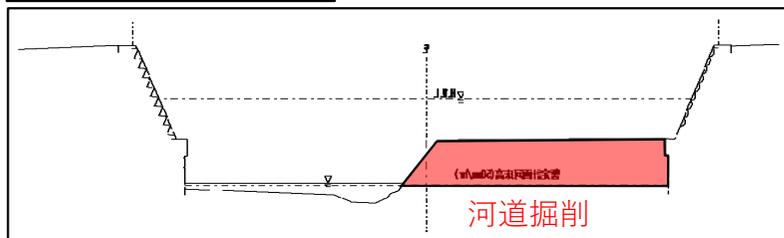
- 引地川水系においては、「引地川水系河川整備計画（平成27年4月）」に基づき、時間雨量約60mmの降雨による洪水を安全に流下させるため、河道整備等（河道掘削、護岸整備、洪水調節施設等）を進めている。

実施状況

■河道整備の一例



整備イメージ



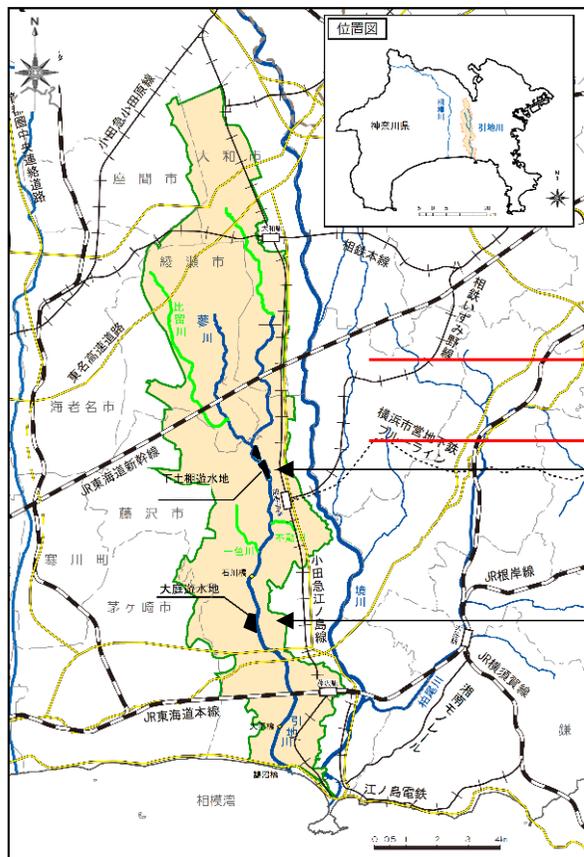
対策内容	実施主体	工程		
		短期	中期	中長期
河川改修事業による河道整備	神奈川県	▶		

引地川流域において、上記を含む類似・同様な取組を実施している自治体

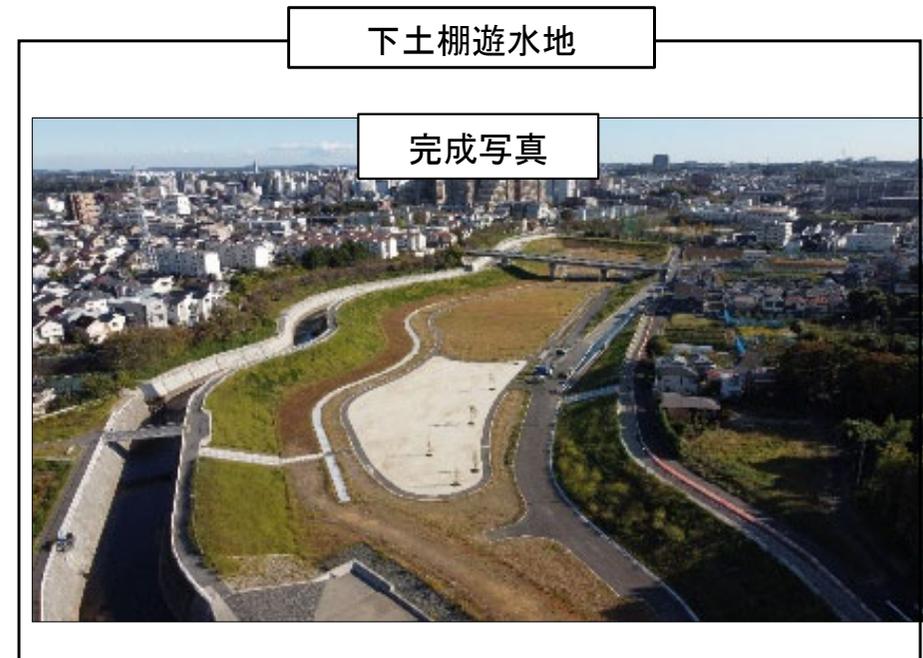
神奈川県

- 引地川水系においては、「引地川水系河川整備計画（平成27年4月）」に基づき、時間雨量約60mmの降雨による洪水を安全に流下させるため、河道整備等（河道掘削、護岸整備、洪水調節施設等）を進めている。

実施状況



洪水調節施設検討中 (R5~)
下土棚遊水地完成 (R2)
大庭遊水地完成 (H5)



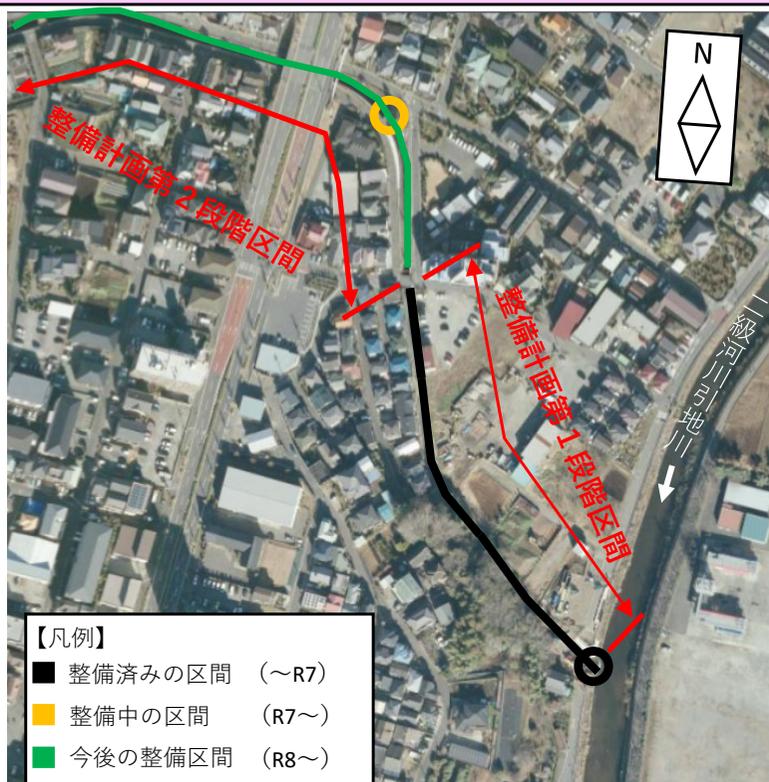
対策内容	実施主体	工程		
		短期	中期	中長期
洪水調節施設整備	神奈川県			

引地川流域において、上記を含む類似・同様な取組を実施している自治体
神奈川県

● 一色川は、二級河川引地川の流域の一部であることから、「引地川水系河川整備計画」(平成27年4月 神奈川県)と整備水準を合わせ、時間雨量約60mm(河道整備50mm+流域対策量10mm)の降雨による洪水を安全に流下させるため、河道整備(河道掘削、護岸整備等)を進めている。

実施状況

平面図

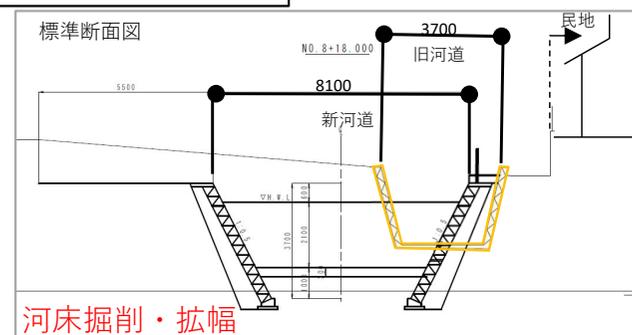


- 【凡例】
- 整備済みの区間 (～R7)
 - 整備中の区間 (R7～)
 - 今後の整備区間 (R8～)

施工状況



整備イメージ



対策内容	実施主体	工程		
		短期	中期	中長期
河川改修事業による河道整備	藤沢市	—————▶		

引地川流域において、上記を含む類似・同様な取組を実施している自治体
藤沢市、綾瀬市

- 雨水の有効利用及び貯留による河川等への流出抑制を目的として、雨水貯留槽（雨水タンク）購入に掛かる費用の一部を助成している。
- 今後は、本制度の内容や目的を広く住民へ周知することで雨水貯留槽の購入を促進して流域の雨水貯留機能を向上させていく。

実施状況

直近3か年に設置された雨水貯留槽の容量（単位：L）

年度	R5年度		R6年度		R7年度	
	引地川	境川	引地川	境川	引地川	境川
No.1	240			250		120
No.2		110	150			110
No.3	120			250	150	
No.4		120	140		140	
No.5			120		200	
No.6			120		150	
No.7			280		100	
No.8					300	
No.9					200	
No.10					140	
No.11					115	
No.12					115	
合計	360	230	810	500	1610	230
	590		1310		1840	

本制度開始からの現在までの累計容量 約100,000L超（平成13年度～令和7年度）



雨水貯留槽設置例

引地川流域において、上記を含む類似・同様な取組を実施している自治体

大和市、藤沢市

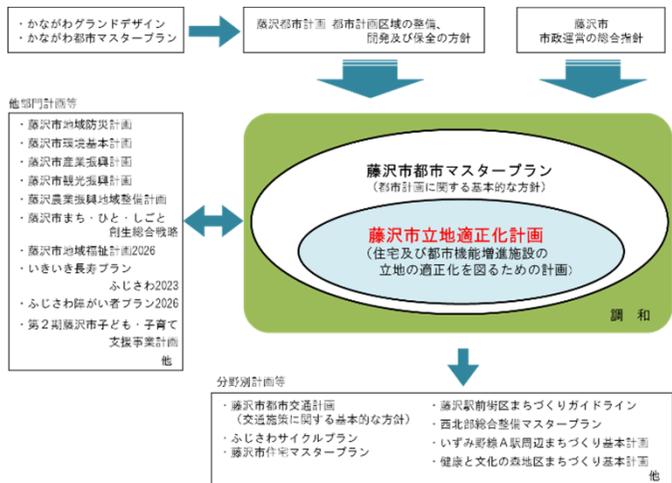
- 藤沢市では、平成29年3月に立地適正化計画を策定し、都市機能誘導区域や居住誘導区域の設定に加えて、災害ハザードエリアについては、本市独自の「防災対策先導区域」を設定し、居住誘導区域外の開発等への届出制度を活用して、開発エリアの災害ハザード状況や避難方法等について事業者や市民等へ周知や意識啓発を図っている。
- 令和6年3月に計画改定を行い、これまでの防災対策先導区域における取組や災害ハザードエリアを含む都市機能誘導区域について、防災指針に位置付けるとともに、災害リスクの周知内容について、更なる充実を図っていく。

取組内容

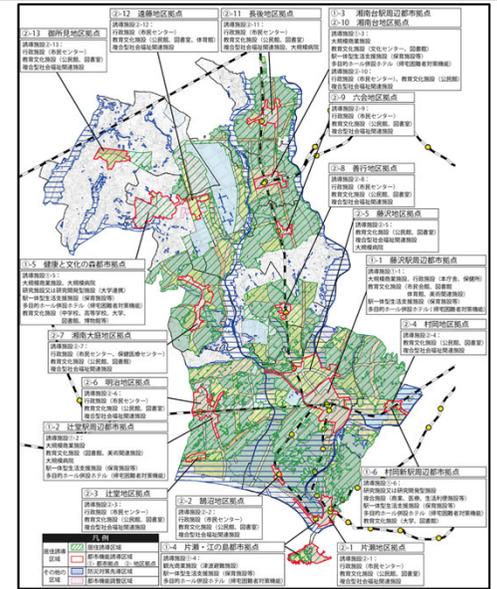
■まちづくりの方針

『市民の誰もが、住み慣れた地域で、安全・安心に暮らせる、
少子超高齢社会等に向けた持続可能なまちづくり』

- 都市構造：・コンパクトな都市構造の核となる6の「都市拠点」
・市民の身近なまちづくりの単位としての13の「地区拠点」
・それら拠点を結ぶ、交流・連携の骨格となる「交通体系」



具現化



対策内容	実施主体	工程		
		短期	中期	中長期
立地適正化計画の推進	藤沢市			

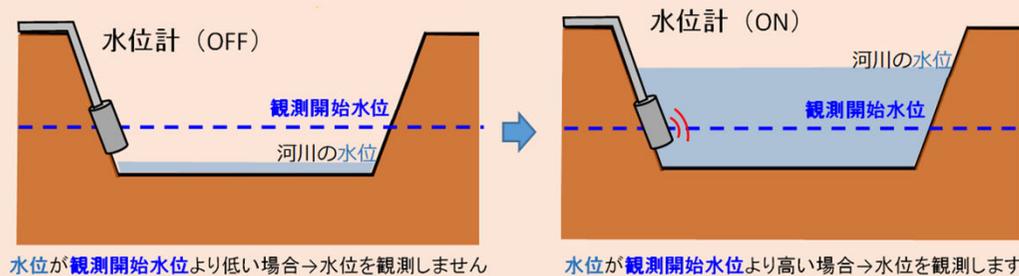
引地川流域において、上記を含む類似・同様な取組を実施している自治体
藤沢市、大和市、海老名市

- 住民の適切な避難判断のための水位情報提供を目的に、これまで水位計の無かった箇所でも水位把握できるよう、洪水時の水位観測に特化した低コストな水位計を設置することで、出水時の水位観測により避難体制の強化を図る。

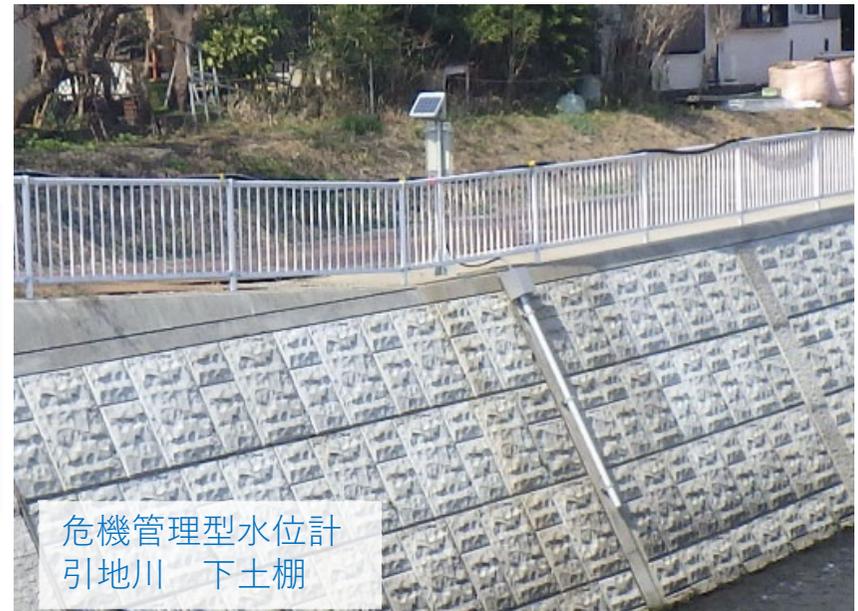
取組内容

■危機管理型水位計とは

- ・ 洪水が発生した際に、河川周辺の住民の皆様が避難する際に、役立てていただくために設置する水位計。
- ・ 河川が未整備のため注意を要する箇所や、学校や病院など、重要な施設が周辺にある箇所に設置。



■危機管理型水位計の設置事例



■県ホームページから水位状況を確認することが可能



対策内容	実施主体	工程		
		短期	中期	中長期
危機管理型水位計・簡易河川監視カメラの設置	神奈川県			

引地川流域において、上記を含む類似・同様な取組を実施している自治体
神奈川県

